



「千年希望の丘」に苗木を植樹する竹谷さん(右)と、(手前左から)伊藤、長田の各議員=31日 宮城・岩沼市

千年崩れぬ森の防潮堤を

竹谷さんら 第2回植樹祭に参加

宮城・岩沼市

公明党の竹谷とし子参院議員は31日、宮城県岩沼市で開催された「千年希望の丘」の第2回植樹祭に出席し、全国から訪れた約7000人の参加者と共に汗を流した。伊藤和博県議と長田忠広市議が同行した。

同市の「千年希望の丘」は、東日本大震災の震災がれきを活用して丘や堤防を造り、その上にタブノキやシラカシなどの広葉樹を植樹して、約10キロにわたる堅固な「森の防潮堤」構築をめざすプロジェクト。

植樹祭では、井口経明市長が「千年先の子どもたちが、笑顔でいられる安心・安全で持続可能な岩沼をつくっていききたい。その象徴が千年希望の丘だ」と力説。植樹指導をした横浜国立大学の宮脇昭名誉教授は「命を守る本物の森造りを、国民運動として進めていききたい」と訴えた。

今回は、新たに造成された長さ約1・4キロの堤防の斜面に、昨年約2倍以上となる約7万本の苗木が植

えられた。

山形県尾花沢市から参加した笹原ふじ子さん(62)は「少しでも復興のお役に立ちたいと思ってきました。未来に生きる子どもたちが災害から守られるよう、立派な森に育ってほしい」と話していた。

竹谷さんは「植樹を通し、あらためて犠牲者の冥福を祈るとともに、被災者の生活再建のために全力を尽くす決意を新たにしたい。命を守る森の防潮堤の国民運動が全国に広がるよう、今後とも後押ししていきたい」と述べた。